

文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2017.8 No.76



－特集－

- 1 頁：「教員研修体制の見直しについて」 石川県教育委員会教育参事兼教員確保・指導力向上推進室長 新屋長二郎 氏
2・3頁：「人は城、人は石垣、人は堀」～移住・Uターン促進による「いしかわ創生」の実現～
いしかわ就職・定住総合サポートセンター センター長 清水 克弥 氏
4・5頁：インタビュー 「人」 水引作家 廣瀬由利子 氏



「教員研修体制の見直しについて」

石川県教育委員会教育参事兼教員確保・指導力向上推進室長 新屋長二郎

本県では、今後10年間で、教員の約半数が入れ替わるという急速な世代交代の時期を迎えています。全国的に高い水準にある本県の教育力を維持向上していくためには、

急増する若手教員の早期育成を図ることや、将来の学校運営を担う中堅教員のさらなる資質向上が急務となっています。また、様々な教育課題に対応するため研修を充実してきたことにより、集合型の研修が増加し、教員が学校現場を離れる機会が多くなっていることも課題となっています。

このため、教育センターを中心とした研修体制を抜本的に見直し、全国的に評価の高い「いしかわ師範塾」と密接に連携することにより、採用前の学生から現職教員、退職後の再任用教員まで、教員のキャリアステージに応じた質の高い研修体制の構築を図ることとしました。

今回の見直しのポイントは、以下の4点です。

- ①若手教員の早期育成
- ②中堅教員の資質向上
- ③集合研修の整理・統合
- ④いしかわ師範塾の充実・強化

若手教員の早期育成につきましては、学校内での若手教員の研修を充実させ、教育センターでの集合型研修と体系的に連動させた「若手教員早期育成プログラム」を確立し、採用から10年程度で実践力のある一人前の教員に育てる体制を整備することとしました。

具体的には、採用後の10年間で3つのステージに分け、1年目から3年目は、学級担任としての力量を身につけること、4年目から6年目は、学年全体を見通して校務を遂行する力を身につけること、7年目から10年目は、学校全体の運営に寄与する力を身につけることを目標とし、それぞれのステージにおいて、教員が身につけるべき資質能力に照らした研修を組織的・体系的に構築しようとするものです。

今年度から2年間にわたり、県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校18校を実践モデル校に指定しました。モデル校では、現在行っている若手教員の育成方法を分析し、県教委が示す研修メニューも加味しながら、年間研修計画を策定していきます。そして、実行・検証・修正を繰り返しながら、校内における若手教員育成の研修体制の確立を図っていきます。

そのモデル校での取組を県教委が検証し、併せて集合型研修である初任者研修、5年経験者研修などの整合性についても検討していきます。このようにして、専門的な知識・理論の習得に加え、現場での実践的な指導力を身に付けさせる石川ならではの「若手教員早期育成プログラム」を確立し、周知を図ったうえで、平成31年度からすべての公立学校で全面实施をしたいと考えています。

中堅教員の資質向上につきましては、県全体の教科指導をけん引する中核的リーダーの育成を図る「教科指導リーダー養成研修」と、管理職への登用に向けて必要なマネジメント力を身に付けるための「学校マネジメント力養成研修」を、新たに内容を充実させて、教育センターを改組した教員総合研修センターで実施することとしました。

「教科指導リーダー養成研修」は、校種ごとに教科グループを編成し、全校種・全教科共通の講義・協議、各教科グループ別の講義・協議、実践ゼミ（指導案検討、研究授業、授業整理会）、外部派遣（先進校視察、セミナー受講等）など様々な形態で、年間14回程度の研修を実施することにより、県全体の教科指導をけん引する資質・能力を身につけてもらいます。

「学校マネジメント力養成研修」は、学校経営力を身に付けた人材の早期育成を目指して、カリキュラムマネジメント、人材育成、危機管理、組織マネジメントといった4つの分野について、年間で7日間程度の研修を実施し、管理職の素養を身につけた中堅教員を育成します。

集合研修の整理・統合につきましては、教育委員会各課が実施していた研修を教員総合研修センターに一元化し、重点化を図るなどして、研修のボリュームを全体で思い切って15%程度削減し、学校現場で子どもと向き合う時間の確保にも配慮することとしました。

いしかわ師範塾につきましては、即戦力となる人材の養成および確保を図るため、受講機会の拡大（定員や開催回数の拡充）、講座内容の充実（他業種にふれる企業実習・講演会の新設）、広報の強化（ILACと連携した大学生向けメール配信、PR用映像の制作・配信・上映）に取組み、充実・強化を図っていきます。

このような研修体制の抜本的な見直しを通じて、教員の急激な世代交代を乗り切り、本県の教育力のさらなる向上を図っていききたいと考えています。



「人は城、人は石垣、人は掘」

～移住・Uターン促進による「いしかわ創生」の実現～

いしかわ就職・定住総合サポートセンター センター長 清水 克弥



1. はじめに

石川県における人口の社会減対策の実行部隊として、平成28年4月に「いしかわ就職・定住総合サポートセンター（通称：ILAC（アイラック）Ishikawa Life And Career Total Support Center）が、石川県本多の森庁舎及び東京大手町に開設されてから、1年と4ヶ月が過ぎようとしています。さらに、同年10月には、東京有楽町のふるさと回帰支援センター内にも相談窓口を開設しました。おかげさまで、平成28年度は相談者数が2,000人を超え、ILAC経由で本県への転職が実現した件数は147人、ご家族を含めた本県への移住者が243人と、初年度として良いスタートが切れたのではないかと考えております。

2. ILAC設立の経緯

現在の日本は人口減少社会に入っており、石川県も例外ではなく、日本海側で戦後唯一人口が増加してきたものの、平成17年の国勢調査を境に減少に転じたところです。

こうした人口減少を背景に、地方創生が国・地方を通じた課題となる中、本県の人口の50年後の将来展望を盛り込んだ「いしかわ創生人口ビジョン」と、今後5年間の具体の行動計画となる「いしかわ創生総合戦略」を平成27年10月に策定しました。

石川への人の流れをつくるといった社会減対策と、結婚や出産、子育てへの支援といった自然減対策の両面からの対策を講じることにより、国の推計では3割減となる2060年の本県人口を、2割減にとどめ、約93万人を目指すこととし、具体的な数値目標と合わせて5つの基本目標を定めています。

その基本目標の1つである「学生のUターン・県内就職と移住定住の促進」を達成するための実行部隊が「いしかわ就職・定住総合サポートセンター」であり、



いしかわ就職・定住総合サポートセンター外観

本県人口の転出超過568人を平成32年には均衡（±0）させるため、さまざまな取組を行っています。

3. 移住・Uターン促進の取組について

ILACの移住・Uターン促進の取組には次の特徴があります。

まず、石川と東京（ILAC東京）の両方に、「仕事」と「暮らし」のワンストップ相談窓口を設置した点です。移住・転職は人生の大きな転機です。「石川にはどんな仕事があるのか」「経験を活かせる仕事はあるのか」「住まいや暮らしはどうなるのか」など気になることは多いと思います。



ILAC東京の入り口には石川の四季のポスターが飾られている

ILACの窓口には専任の相談員がおり、相談者一人一人に寄り添い親身になってサポートしています。特に、ILAC東京はJR東京駅から徒歩1分というアクセスのよい場所にあります。また、本県専用の相談スペースになっており、プライバシーも守られ、ゆっくりと、落ち着いて相談することができます。



ILAC東京の相談スペース

もう一つの特徴は、仕事の紹介にあたっては、県内製造業や金融機関出身の経験豊富な「人材コーディネーター」を中心に、求人票や履歴書だけではわからない企業の社風や強み、相談者の経歴や人柄も勘案して、丁寧なマッチングに心がけている点です。

例えば、相談者ご本人はこれまでの経験から、

引き続きIT業界での就職を希望されていましたが、面談の中で数値処理が得意であることや、ものづくりへの関心が高いことが伺えました。ある半導体部品メーカーにおいて、超精密部品加工における品質管理部門の強化の相談を受けていたことから、企業と相談者の間を取り持ち、異業種への転職に成功した事例も誕生しています。

企業の方からは「ILACは当社の特徴をよく理解してくれていて、当社が求める人材、逆に求めているなくても当社にとって必要な人材を『当意即妙』で紹介してくれ感謝している」といった感想や、相談者からも「初めての転職で不安だったが、ILACに相談することで、転職活動が『個人戦』から『チーム戦』になった感じがして心強く、無事Uターンすることができた」と感謝の言葉を頂いており、また、そのことが私どもにとって大いに励みとなっております。



人材コーディネーターの皆さん

4. これからの人口減少対策に必要なこと

現在の雇用情勢は超売り手市場といわれており、各県が行っている首都圏からの人材獲得競争は熾烈を極めています。石川県出身ではない「Uターン」の方々に、いかに石川県の住みやすさや魅力的な仕事を効果的にPRするか、ILACはもとより、自治体の皆様や企業の皆様としっかり連携して取り組んでいきたいと考えております。

同時に、石川県出身である「Uターン」の方々への働きかけも重要です。特に、Uターンするかどうか迷っている方へは、ご家族やお知り合いの方からの何気ない一言がUターンに向けて動き出す大きな後押しになります。実際、ILACでも、親御さんが捨てずに残してくださった「ILAC紹介はがき」や「新聞の切り抜き」がきっかけとなって、お子様のUターンに繋がった例もございます。ぜひ、ゆかりのある方へのILACのご紹介をお願いいたします。

石川県には全国ネットのテレビCM等で目に触れる企業は少ないかもしれませんが、しかしながら、石川県には、優れた技術を持ち世界を相手に活躍している企業や、「ニッチトップ企業」といわれる特定の分野で、日本、さらには世界でナンバー

ワンのシェアを誇る企業が数多くあります。他にも、活況を呈している観光産業など、魅力的な産業があり、また、さまざまな機関による起業・創業支援制度や、自治体による移住支援制度なども充実しています。実際に、ILACを活用し首都圏の大手企業からUターンされた方が、培ったスキルを発揮し、即戦力として活躍されている例がいくつも生まれています。

もちろん、都市圏で名の通った大企業で働くことは、だれもが経験できることではありません。一方で、結婚し、子供を持ち、子育てしながらの生活を考えると、果たして暮らしやすい、子育てしやすいといえるのでしょうか。本県に縁もゆかりもなく移住された方の移住の理由の一つに、本県の子育てのしやすさを挙げている方が多くいます。本県の子育て環境のよさが県外の方に評価されているということだと思います。

県外に進学された、または県外で働いておられるお子さん、お孫さんにはぜひとも「石川県にも魅力ある企業がたくさんあるよ」「石川県は子育てがしやすいよ」とお伝えいただきたいと思います。

「本当に石川県にそんな企業があるのだろうか」とお思いの方には、ぜひ、移住・UIターンのための情報サイト「イシカワノオト」や、若者就職情報総合ポータルサイト「ジョブナビ石川」をご覧いただきたいと思います。

5. ロゴに込められた思い

最後に、ILACのロゴをご紹介します。金沢城公園の石垣がコンセプトになっており、「ILAC」の文字を石垣に見立てています。形も大きさもバラバラな石の集まりで城の礎を築いているように、石川県に多様な人材が集まり活躍し、石川を皆で創り上げていくという願い、また、力強く石川を支える「いしかわ創生」の拠点であるという意味が込められています。

「人は城、人は石垣、人は堀」という、『勝敗を決する決め手は「人』であるという例えのように、全ては人材に始まり人財に繋げることが重要であると言われてしています。

まさに、ILACに課せられた「使命」に通ずるものを感じずにおれません。

県民の皆様には、ILACの活用をお願いするとともに、石川を皆で創り上げていく想いを共有できればと思います。宜しく、願います。



<石川移住UIターンサポートメディア>

●イシカワノオト

<https://ishikawa-note.jp>



水引作家 廣瀬由利子さん

金沢市出身。約17年前、ニュージーランドでの文化交流がきっかけで水引の世界へ。
2009年水引で刺繍のように模様を作る独自の手法「刺し水引」を編み出し特許を取得。
2012年革新的ベンチャービジネスプランコンテストいしかわ（ISICO主催）で女性初の最優秀起業家
賞受賞。

インタビュアー 文教会館 館長 宇都宮 博



館長：なぜ水引細工をしようと思ったのですか。

廣瀬：私の家はサラ

リーマン家庭なんですけど、母がニュージーランドで日本の文化を紹介する機会を得て、「日本ニュージーランド文化交流会」を立ち上げました。交流会として「水引を持ってきてほしい、そしてそのワークショップをしてほしい」という要望があり、適任者がいなかったの、私たちが水引について勉強をしようと思いました。

館長：水引の産地はいろいろあるとは思いますが、どのように勉強されたのですか。

廣瀬：生産地である長野県飯田市を訪れ、水引の製造と「あわじ結び」の基本を学びました。そしてニュージーランドの各地で紹介し、ワークショップをしたところ、評判が良く、大変喜ばれました。

館長：水引以外にもニュージーランドで紹介した日本文化があるんですか。

廣瀬：他にも生け花や和紙の展示と和紙作りを紹介しましたが、一番人気があったのが水引でした。彼らは細い糸が作り出す造形美に夢中になり楽しんでくれました。ワークショップに参加したひとりが自分で作ったナフキンリングを見せてくれて衝撃を受けました。この体験から「日常使いの水引」を提案できるのではないかと思います。

～水引が一つの素材として認められた～

館長：廣瀬さんが作っている水引細工とはどのような作品ですか。

廣瀬：結納などの慶事に使う鶴や亀のようなものではなく、コサージュなどのアクセサリーや名刺入れなど日常に使える水引細工ですね。

館長：水引は室町時代から贈答品を包むために作られたのが始まりで、日本の伝統的な礼法として渡すもののアクセントとしてあるものだと思うのですが、廣瀬さんの作っているものはオブジェではなく、水引細工をアレンジして「日常使



い」にしたわけですね。

廣瀬：はい。文化交流会でニュージーランドの方々が日本の水引を熱心に学び、新しいアイデアを取り入れようとする姿を見て、大変感銘を受けました。水引の素材自身が世界に通用すると実感し、金沢だけに納めておくのがもったいないと思いました。水引が日本を代表とする素材として世界の人に触れてほしいと思いました。

館長：このテーブルの装飾やランプシェードも廣瀬さんの作品ですか。

廣瀬：はい。このテーブルの装飾は「刺し水引」という技術で特許を取得することができました。

館長：伝統工芸の世界でもあるように「用の美」です

ね。「日常使い」と同じ意味だと思うのですが、輪島塗りの蒔絵など石川県はどちらかという「用の美」を重ねる文化が強いですね。

「用の美」という

のは、実用性を目的に職人が無心に努力を重ねた結果、美しさを宿したもののことを言うのですけど、廣瀬さんの作品を実際見ていくとモダンで上品、そして実用的な世界を感じますね。



～石川で飾糸巻水引をつくる～

館長：水引の産地は長野や愛媛、福井なら大野（今はやっていないが）といろいろありますが、産地によって違いはありますか。

廣瀬：水引の産地は紙を漉いているところにならどこでもありますが、今はほとんどが機械でやっていますね。私たちは主に、京都の工場のものを使っています。後は石川県内で作っているものを使っています。各産地の水引は年々質が低下してきています。表面がきたなかったり、傷や汚れがあるようになってきました。石川県は産地ではないのですが、県の工業試験場に相談して「石川県でも作ろう」と県内の業者で紙芯にカバーリング技術を施し、糸を巻いて「飾糸巻水引」を作ってもらっています。

館長：水引が劣化しているのは不思議ですね。日本はそういう技術は得意なはずですが。

廣瀬：本当ですね。結納飾りなどの需要が減り、業界

的にも大打撃で、設備投資できなくなったのでしょ
ね。私は結納にこだわらず水引を残すために、使われ
方を現代的なものにしたいと思いました。

館長：廣瀬さんが主に使っている水引の素材の種類と
結び方を教えてください。

廣瀬：素材の種類は「飾糸巻水引」と「紙を縫った水引」
などがあります。結び方の基本は「あわじ結び」です。
「あわじ結び」のほか、立体的にした「珠結び」や「梅
結び」があります。糸の色や素材、本数によって同じ
結び方でもまったく違う表情になるのも水引細工の魅
力ですね。この立体的なランプシェードは「あわじ結
び」を下から結び上げたものです。

～基本を押さえることが何よりも大切～



館長：ランプシェードなどは結び
方は違いますが、竹細工と作業手
順は同じですね。工芸はなかなか
進歩がみられないといいますが、
水引の修行で一番難しかったこと
は何ですか。

廣瀬：一番難しかったことは結び
の技術がない中で、オリジナルの
作品を作らなければいけなかつた

ことです。そのために、基本の結びをひたすら練習し
ました。そうするとある日飛躍し、基本の結びを応用
したコサージュを作るアイデアが浮かんできたんです。

館長：わかります。私も高等学校で受験指導をしてい
たとき、基礎基本が大切であると言っていました。基
礎基本を繰り返し押さえることである日突然、今まで
解けなかった難しい問題も解けるようになるのです。

廣瀬：本当にそうです。一本どりのあわじ結び、二本
どりのあわじ結び、三本どりのあわじ結びと基礎基本
を徹底的にやっていくうち、きれいに作れるようにな
ります。珠も百個作っても全然丸くならないのですよ。
千個、二千個作ったときに初めて
丸くなりました。本当に作った分
だけ上手になります。

館長：基礎基本の徹底した練習が
一番伸びる修行ですね。



～オリジナル水引「四季の糸」誕生～

館長：ところで、なぜ、伝統にこだわらない分野で水
引細工の作品ができるという確信があったのでしょうか。

廣瀬：はっきりした確信はなかったのですが、伝統の
世界ではできないもの、作っていないものをつくるこ
とができるということは大変恵まれた環境で、また需
要に合わせて作ることができるということは、とても
やりやすいことに気がきました。

館長：なるほど、時代のニーズに合わせて、作品に新
しい息吹を吹き込んでいくということですね。

廣瀬：平成24年に、「I S I C O」（石川県産業創出
支援機構）の「革新的ベンチャービジネスプランコン
テストいしかわ」でグラン
プリを取り、集中支援を頂
きました。当時、新しいカ
ラーパリエーションの水引
を作りたくて、石川県工業



試験場と県内の業者の方を紹介していただき、県内初
のオリジナル水引「四季の糸」を作ることができました。

館長：それは素晴らしいですね。石川県の素材開発の
分野で成長していくことが感じられますね。

～世界に発信・新しい伝統の創造～

館長：他のジャンルとのコラボによる新しい作品はあ
りますか。

廣瀬：イギリスのカフリンクスのブランドがこのテー
ブルの「刺し水引」を見て、カフリンクスの中に水引
を取り入れてくれることになりました。そして、カフ
スの金属枠裏に「M I Z U H I K I」と刻印されました。
また、パーテーションや照明などに組み込んで「建
築内装材」としても使用する試みをはじめています。

館長：石川県は加賀前田家の方針で、江戸時代より伝
統工芸に力を入れてきた地域だと思えますが、廣瀬さん
は、水引の普及のため、どのような活動をされていますか。

廣瀬：地域の方々のために教室を開いていますが、教
室に習いに来る人は作る工程が楽しく、アクセサリ
を作りたいと思って来る方が多いです。ホビーとして
一般に広がっていると思います。水引の敷居が低く
なって、興味を持ってくださる方が多くなりました。

館長：今後の抱負をお聞かせください。

廣瀬：人に愛され、使われることを目的とした新しい
伝統を作っていきたいという気持ちです。日常の暮ら
しの中で生きる「日常使いの水引」を展開していきたい
と思っています。そして、水引の内にある日本の心
を世界に伝えるために、良いものを作り出していきたい
と思っています。

館長：ありがとうございます。今後のさらなるご活
躍をお祈りしております。



事業報告

平成29年度 文教国際理解講座のご案内 ~ネイティブスピーカーによる簡単な語学講座です~

アメリカ・カナダ・韓国・中国出身のネイティブスピーカーの指導で、外国の言葉や文化を学べます。定員に空きのある講座には途中入会ができます。お電話でお気軽にお問い合わせください。



コンソルボ先生 (英米文化)



タスケン先生 (英米文化)

実施期間：2017年5月～2018年3月
 対象：一般、教職員、高校生
 定員：1講座 20名
 受講料：年額36,000円(年35回)(教材は実費負担)
 ※途中入会の方の受講料は入会後の回数分となります。

	10:00~11:40	18:30~20:10
火曜日	▲英米文化 中級	英米文化 準中級 ▲英米文化 上級
水曜日	英米文化 準中級 英米文化 中級	英米文化 準中級 韓国文化 初級 中国文化 初級
木曜日	英米文化 初級 ▲英米文化 準中級	英米文化 初級 英米文化 中級

▲は現在定員に達しています。 ※中国文化は19:00~20:40

☆ホームページから募集要項等をご覧ください。

文教国際理解講座 検索

楽しいひとときです。ぜひ応募ください。



リョウ先生 (中国文化)



イム先生 (韓国文化)

教育資料収集整理事業

当財団では、本県の教育の足跡の顕彰と活性化に寄与していきたいと考え、県内に存在する貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。江戸時代に藩学で使われていた書籍や明治時代からの教科書をはじめ、教育文献・教育物具等、収集数は5万点を数えます。これらの教育資料は当館の資料展示室や物具室で閲覧することができます(要予約)。1階ロビーにおいても随時、収集資料の紹介をしています。

また、年間を通じて県立学校の活動の紹介等を行うロビー展や、11月の教育ウィーク期間中にはどなたでも参加できる教育史セミナーを開催し、多くの県民の皆さまに教育に対して関心と理解を深めていただけるようつとめております。当館へぜひともお立ち寄りください。



ロビー展

*ロビー展の様子は当館ホームページをご覧ください。

蔵書リストは当館ホームページよりダウンロードができ、ご自由にご覧いただけます。

資料展示室



物具室



お願い

学校やご自宅で廃棄予定の古い教科書や教具の教育資料を当館にご恵贈ください。

石川県文教会館 TEL.076-262-7311

文教会館教育資料 検索

ロビー展出展団体の募集

学校や団体等の活動紹介、絵画・習字・工作等の発表に当館のロビー展をご活用ください。

推進委員会と資料調査員会



当事業の充実を図るため8教育団体※のご協力を得て、年2回の推進委員会(写真:左上)と年1回の資料調査員会(写真:右上)を開催しています。

委員の皆さまからは、教育資料の収集整理・活用に関するご意見や小中・高等学校等の資料の情報等を頂戴しています。

※県小中学校長会・県高等学校長協会・県退職校長会・県高等学校退職校長会・県PTA連合会・県高等学校PTA連合会・県教育振興会・県特別支援学校長会

事業紹介

平成29年度のアートウェイブ

文教アートウェイブとは、地域文化の振興を図ることを目的に、地域で活躍する芸術文化団体に舞台発表の場を提供する文教会館事業です。今年度も感動のひとつときをお届けします。

金沢市立小将町中学校吹奏楽部 第6回定期演奏会 29.7.1



金沢市立小将町中学校吹奏楽部の第6回定期演奏会は「冒険」をテーマに楽しく躍動感あふれる演奏でした。高岡中学校とのジョイント演奏も盛り込み情熱を感じさせるステージでした。

第51回 金沢放送合唱団演奏会 29.7.29



金沢高校吹奏楽部 サマーコンサート 29.7.15

酒井珠江&川岸香織 ピアノジョイントリサイタル 29.7.22



☆☆ 今後の公演予定 ☆☆



石川県立桜丘高等学校吹奏楽部 ◆金沢桜丘高校吹奏楽部クリスマス&アンサンブルコンサート	平成29年12月16日(土) 開演17:30 ◇入場: 無料
オフィス・クロシェット ◆バレエの街コンサート2018	平成30年1月21日(日) 開演14:00 ◇入場: 一般2,000円 中学生以下1,000円
石川県立金沢辰巳高等学校 ◆石川県立金沢辰巳丘高等学校合唱部演奏会	平成30年3月24日(土) 開演18:00 ◇入場: 一般700円
石川県立泉丘高等学校合唱部 ◆石川県立金沢泉丘高等学校合唱部 第9回定期演奏会	平成30年3月31日(土) 開演14:00 ◇入場: 一般500円

文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方にホールについて利用料と冷暖房費を無料でお貸ししています。(照明設備費・舞台技術費等有料)

リハーサルを含む3日間(連続)までご利用できます。

詳しくは文教会館事業課までお問い合わせください。

TEL (076) 262-7311

☆ホームページから募集要項や申請書、過去の公演一覧をご覧いただけます。

文教アートウェイブ 検索

文教会館の施設ご利用について —教育文化の発信に 研修・会議・交流の場—to



各種演奏会、公演などに適した音響・照明完備のホールです。(590席)



少人数の打合せから研修・講演会まで、用途やご利用人数に合わせて、様々な大きさ・タイプの会議室をご用意しています。



様々な用途にお使いいただける和室のほか、茶室や応接室もあります。

当館ホームページで詳細をご覧になれます。街中のオアシス「文教会館」をぜひご利用ください。

第30回 いしかわ県民陶芸展

— アマチュア陶芸作品募集 —

県内のアマチュア陶芸愛好家の皆様、作品の創作・展示・鑑賞を通して、陶芸の楽しさや豊かさを発見しませんか。

石川県にお住まいの方ならどなたでも応募できます。初心者の方も大歓迎です。小さなお子様からご高齢の皆様まで、ぜひ、ふるって作品をお寄せください。お寄せいただいたすべての作品を展示します。どうぞ、発表の場としてご活用ください。

■作品応募について

- 作品規定**
- ・未発表の自作品（1人1作品のみ）
 - ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
 - ・団体作品は、展示時に90cm×90cmの範囲内
- 受付日時** 平成30年1月14日(日) 10:00～15:00
- 受付場所** 石川県文教会館1階ロビー
- 出品料** 一般：2,000円、青少年（20歳未満）：無料
- 審査員** 浅蔵五十吉 飯田雪峰 大樋長左衛門（敬称略）

応募要項・応募票は、石川県文教会館にあります。
また、当館のホームページからもダウンロードできます。
<http://www.bunkyo.or.jp/>



第29回 いしかわ県民陶芸大賞
[共同制作 赤掻き落とし時計陶板「時」]
浦出 雅樹/桶師 野乃花/川上 晟矢
小山 龍也/坂谷 圭悟/村井 晃大
(石川県立加賀高等学校)



第29回 審査会の様子

■作品展示について

- 展示期間** 平成30年1月20日(土)～28日(日)
9:00～16:30 (最終日は15:00まで)
- 展示会場** 石川県文教会館
- 表彰式** 平成30年1月21日(日) 13:30～15:10 石川県文教会館
◇賞状授与：大賞、石川県教育委員会賞、理事長賞等
◇審査員による講評・作品解説
- その他** 展示期間中、入場者の投票による「わたしの選んだ一点賞」を実施します。投票された方には抽選で記念品を贈呈します(若干名)。

入場無料

主催：公益財団法人石川県文教会館
後援：石川県、金沢市、石川県教育委員会、北國新聞社、NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななお、FM-N1



作品展示の様子

「いしかわ教育ウィーク」関連行事のお知らせ

教育資料ロビー展

文教会館所蔵

「修身・道徳」教科書のあゆみ展

期間：11月1日(水)～7日(火)

会場：石川県文教会館1階ロビー

当館が所蔵している明治から現代までの教科書約5,800点の中から、「修身・道徳」の教科書を中心に展示します。



入場無料

「教育史セミナー」開催

- 日時** 11月2日(木) 14:30～16:00
- 会場** 文教会館4階大会議室
- 講演** 演題 「学習指導要領の変遷とアクティブ・ラーニング」
講師 中山 修氏
(元石川県立泉丘高等学校長)
- 参加費** 無料・申込不要

「道徳教育」「必修クラブ」「ゆとりの教育」
「総合的な学習の時間」などの学習指導要領に示された目玉施策についてご講演していただきます。

